

みやいち こくが 宮市・国衙地区都市再生整備計画

第7回まち交大賞
創意工夫大賞

歴史を活かしたまちづくりの実践



宮市・国衙地区



観光交流センター 防府市まちの駅（愛称公募：うめてらす）



宮市地区内の状況（整備前）



地区内道路の整備イメージ



生まれ変わった宮市地区（整備後）

事業段階毎のポイント

Plan 計画策定時のポイント

～地区内都市計画道路の変更～

- ・ 史跡や文化財に配慮した施設整備とするため、文化庁からの助言や地元のご意見等を踏まえ、計画区域内は拡幅を伴わない現道の市道にするとともに、都市計画道路の位置付けを幹線道路から区画道路に変更した。

Do 事業実施中のポイント

～まちづくりの意識の醸成～

- ・ 歴史を活かしたまちづくりの必要性を理解していただき、まちづくり活動の意識の醸成や高揚を図るため、まちづくりシンポジウムの開催や住民説明会を実施した。

～協働のまちづくり～

- ・ 歩者共存道路整備や電線類地中化などは、地元住民の協力なくしては実施不可能なため、実際に現地で歩者共存道路の区分割りを行うなどの社会実験を行い、地区住民で検討・検証する取組を行った。

計画に記載した数値目標

目標を定量化する指標	整備前 (H18)	目標値 (H24)
指標 1 観光交流センター付近の自転車歩行者数 [人/日]	100 ⇒	200
指標 2 景観及びまちづくりに関する満足度 [%]	46 ⇒	56
指標 3 主要観光施設への入り込み者数 [万人/年]	62 ⇒	70

※指標 1 の従前値(整備前)はH19年度時点の数値

事業の位置付けや背景

本地区は、天満宮の門前町として商工業の中心として発展し防府のまちづくりの礎を築いてきた。

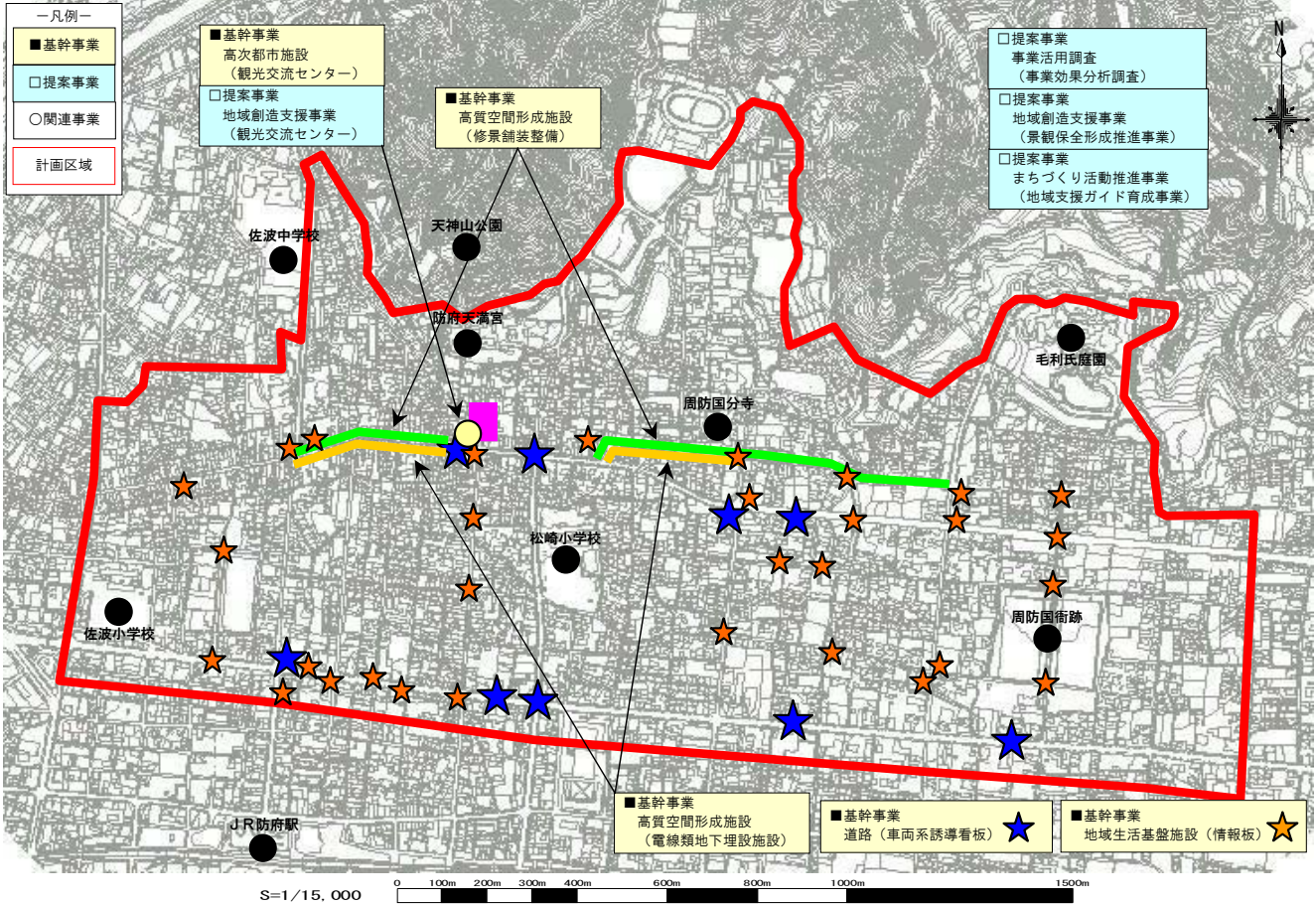
地区内には、市の代表的な歴史観光施設である防府天満宮をはじめ多くの国指定史跡などの文化財のほか、萩往還、旧山陽道などの歴史的なまち並みが残っている。

本地区は、歴史的文化的資産の保存か、都市基盤施設整備かの選択ではなく、両者が調和・共存するまちづくりを実践するものである。

地区等の問題点・課題

- ・観光客とのふれあいの場がないほか、回遊性が低い
ため特定の施設に観光客が偏りがちで各施設の入り込み客数がまばらであり、全体的に入り込み客数が伸び悩んでいる。
- ・旧山陽道や萩往還は道幅が狭いうえに自動車の交通量が多く、自転車や歩行者の通行が安全でない。
- ・旧山陽道や萩往還沿いの歴史的なまち並みが失われつつある。

整備概要図



事業の目標・整備方針

【目標】

- 「歴史を活かしたまちづくり」の実践
- ・観光客の入り込み数及び滞在時間の増加。
 - ・快適で安全な歩行者空間の創出。
 - ・守り育ててきたまち並み環境の保全。

【整備方針】

- ①歴史を活かしたまちづくりを実践し、観光資源やまち並みを保存・活用していくことで地区内の魅力が再認識され、観光客へのおもてなしの心を育みながら交流していくための空間を整備する。
- ②道幅の狭い歴史的路線である旧山陽道及び萩往還について、歩行者の安全性、快適性を高めるために歴史的な景観やまち並みに配慮した交通環境の整備を行う。
- ③歴史的資産やまち並みの保全、沿道の景観形成を誘導するための条例は制定しているが、今後、懇談会や勉強会等により景観に対する意識の醸成・高揚を図り、景観法に基づく景観形成地区の指定を目指す。

事業内容

■事業計画諸元

- 事業名：宮市・国衛地区都市再生整備計画事業
- 事業主体：防府市
- 位置：防府市上天神町、南松崎町、国衛ほか
- 総事業費：約1,250百万円
- 事業概要

- ・地区面積：220ha
- ・計画期間：平成20年度～平成24年度
- ・構成事業：

【基幹事業】

- ◆道路（車両系誘導看板N=9基）
- ◆地域生活基盤施設（情報板N=31箇所）
- ◆高質空間形成施設（修景舗装L=1,010m、水路修景等L=840m、石畳L=200m、電線類地化埋施設L=580m）
- ◆高次都市施設（観光交流センター）

【提案事業】

- ◆地域創造支援事業
 - ・観光交流センター
 - ・景観保全形成推進事業（白壁修景など）
- ◆まちづくり活動推進事業（観光ガイド育成など）

主な事業の実施内容

■観光交流センター整備（防府市まちの駅）

- ・防府市の観光交流、回遊拠点として、展示・休憩・情報施設・飲食施設・地域産物等展示販売施設等からなる観光交流センターを整備した。
- ・防府天満宮や旧山陽道と萩往還の交差点に面した位置にあり、平成22年4月にオープンし、開業1年8ヵ月で来館者100万人を達成するなど、にぎわいの拠点となっている。



開業1年8ヵ月で来館者100万人を達成した観光交流センター『うめてらす』

■景観に配慮し、地元意向を踏まえた整備

- ・地区内道路の整備にあたっては、文化財価値や地元意向に配慮した整備を行っている。



道台を兼用した用水路（整備前）



石組道台を保存展示した水路改修（整備中）



各種ワーキング会議で検討した最終整備イメージ

■地域支援ガイド育成事業

- ・観光交流センターの支援事業として観光ガイド育成事業を実施している。現役ガイド員の質の向上に加え、新人が加入することによって活気が出てきており、ガイド員は育成事業開始前に比べ倍増している。
- ・観光ガイドが充実したことにより、ウォークラリーや「地旅」など継続的なイベントを計画できるようになった。



ガイド育成事業の様子

■施設整備と連携したその他の取り組み

◇まちづくりワーキング会議の開催

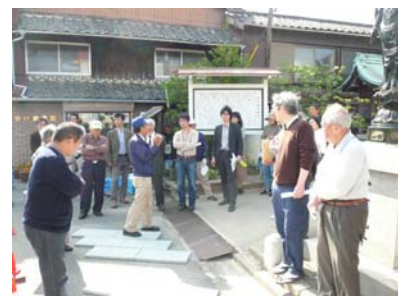
- ・計画検討や使用する素材などの細かな点まで各地区で地元ワーキング会議を開催したり、専門デザイン委員と地区代表のワーキング会議を開催し、地元意見の取りまとめや調整を行いながら事業を実施している。



地元ワーキング会議



地元代表と専門委員のワーキング会議（地元意見の取りまとめ等を実施）



現地での地元ワーキング会議により整備内容の検討・検証を実施